第４回北上市史編さん委員会　会議録

１　日　時　平成28年８月18日（木）午後２時～３時

２　場　所　北上市本庁舎５階第１会議室

３　出席者

編さん委員９名

（佐々木和夫、佐竹邦彦、沼山源喜治、本堂寿一、和賀篤子、高橋源英、阿部武司、及川副市長、小原教育長）　欠席：高橋文化財課長　※敬称略

事務局

（松田部長、小原課長、石田上席主任、小原主任、小田嶋主査）

※欠席：小原補佐

４　内　容

市史編さん専門委員会で出された基本計画に対する意見をもとに、事務局で基本計画の修正案を提示し、編さん委員からの意見を求めた。

５　協議結果

(1)　編さん委員会と編さん専門委員会の合同委員会または懇談会の開催について

懇談会は開催しても良い。ただし、委員会の合同開催は行わない。

(2)　基本計画の構成・刊行計画について

事務局の提示した、事業終了時期は変えずに資料編の冊数を３冊から５冊へ増やすという修正案で了承を得た。そのため、近世や近現代は資料編刊行の２年後に通史編を出す流れになるが、作業量に応じ対応することとする。また、自然編の改称については、一般市民の感覚に合わせるため、「自然」とする。

(3)　部会の人数について

編さん専門委員会要綱第７条の２「部会員10人以内」を、総数は変えずに人数を調整するように変える（例えば「部会員総数60人以内」）。

(4)　編さん事業終了後の資料について

今後、博物館や図書館との関係課協議を開き、資料の保存・活用について話し合うこととした。

６　会議録

(1)　開会

(2)　あいさつ（委員長）

(3)　報告

①普及事業について

事務局から平成27年度に開催した市史編さん事業開始記念写真展の開催の結果と、平成28年度市史編さん室企画展が現在開催中であることを報告した。

②編さん専門委員について

事務局から６月22日に開催した市史編さん専門委員会において、８名の先生に委員を委嘱したことを報告した。また、編さん専門委員長に中村良則富士大学副学長、職務代理者に熊谷常正盛岡大学教授を互選で選出したことをあわせて報告した。

(4)　協議・(5)　その他

編さん専門委員の意見を踏まえた基本計画の修正について

事 務 局　　６月22日に編さん専門委員会を開催し、基本計画について意見をいただいた。

最初に全体的な事項に係るものということで、編さん委員会と編さん専門委員会の合同で委員会もしくは懇談会を、良い市史を作るためにイメージを統一するために開催したいという意見が出た。事務局としては、委員会については、間に事務局が入りその都度調整したいと考えているが、懇談会の開催については編さん委員の意見を聞きたい。

次に構成・刊行計画に関するものとして、一番多く出されたのが資料編を充実させるべきで、補遺編ではなく各時代の資料編の改訂版を出したいという意見である。これについて、「40 年以上前に出された資料編を基に通史編を書くのはできない」、「40 年以上経過しており現在の資料論からみてそぐわない部分があるため、補遺編では収まらない」、「近世資料は膨大に出てくるため、どこまで補遺編で対応できるのか」、「研究成果を蓄積していくことも北上に誇りを持てるような内容にするためには大前提であり、今の基本計画ではその面がでていない」といった理由が挙げられた。

また、資料編を出して２年後に通史編を出すという計画の見直しをしてほしいという意見が近代の先生から出たが、現行計画では現代編が資料編刊行の翌年に通史編の刊行という近代よりもさらにきつい計画になっている。以上、資料編の内容や刊行計画については、改めて説明する。

それから、「自然」を「自然史」という風に名称変更してはどうかという意見が出された。自然というと幅広い意味にとらえがちになってしまうので、自然というのは自然史であるということでより近い言葉にしてはどうかという意見が出ている。他自治体史で「自然史」で出

しているところはなく、事務局で判断はできないので、委員の皆様から意見をお願いしたい。

次に部会について、古代・中世部会、近現代部会の人数を増やしてほしいという意見が出た。現行では古代・中世部会、近現代部会では最大５人ずつになるためである。これについても、後で改めて説明する。

最後に、編さん事業終了後の資料をどうしていくのかという意見が出た。これについては、内々ではあるが図書館、博物館とで話をしているが、近々関係課協議を開きたいと考えている。

出された意見についてはこの通りである。構成･刊行計画について、事務局の修正案をみていただきたい。

資料編と通史編の規格・頁数については『八戸市史』を参考にして考えた。修正前と修正後で大きく異なるのは資料編で、近代・現代・補遺の３冊から近代・現代・考古・古代中世・近世の５冊への変更を考えている。冊数が増えた分を、印刷費、ページ数の見直し、ソフトカバーにするなどして対応したいと考えている。修正前のイメージでは、資料編は『旧北上市史』、通史編、特別編は『横手市史』の体裁、いずれもハードカバーで考えていたが、修正後は『八戸市史』のように一般の方が手に取りやすいように、通史編はソフトカバーにしてみてはどうかと考えている。ハードカバーよりソフトカバーの方が予算的にも安くなる。資料編、特別編はA4サイズにする。資料編はA5からA4へ拡大になるので、ページ数を減らした。

以上のように修正した場合、基本計画はどのように変更に変わるのかについては、市史の内容、構成の部分で資料編の補遺に関する項目を削除し、巻数を３巻から５巻へ変更する。規格についても先ほど説明したとおりの変更を考えている。

刊行計画について期間の延長はせず、当初の計画どおり平成37年度に事業終了ということで考えている。追加された資料編の内容について、考古は『旧北上市史』刊行後に新たに発掘された遺跡や遺物を載せる、古代・中世は『旧北上市史』第１巻、第２巻の改訂、近世は専門委員の先生と相談しなければならないところだと思うが、今のところ『旧北上市史』第３巻から第12巻の改訂及び『旧北上市史』刊行後に発見された資料の収録ということを考えている。

刊行計画は、表にあるとおりに変更した。冊数を増やしても期間の延長をしないことから、どうしても資料編を刊行して２年後に通史編

を出すという計画になってしまうが、今のところはこの計画で進めていきたい。

次に部会の人数の変更ということで、編さん専門委員会要綱の7条の２で「部会は、部会員10人以内」としているところを「総数60人以内」に変更したい。この60人というのは、６部会×10人ずつとすると全体が60人となり、各先生方に聞いてみたところ10人で考えているところはないことから、人数の調整で対応したいと考えている。事務局からは以上である。

委 員 長　一気に基本計画の修正について事務局から提案したが、振り返りながら進めていきたい。専門委員からの意見を参考に事務局から修正案が出されたと。初めに合同委員会については、誰が何を決めたのか分からなくなる会議になるので、それぞれの立場で決めていき、その都度事務局が間に入ってつなぎたいというのが事務局の立場である。懇談会については情報交換をするのは、日程が合えば構わないと思うがいかがか。

（一同賛成）

委 員 長　それでは、それぞれの立場で決めるべきところは決めていくということで進めたいと思うのでお願いしたい。それでは次に、重要な構成・刊行についてであるが、資料編の補遺をやめて分野を増やすという変更についてはいかがか。通史編・特別編については変更あるのか。

事 務 局　通史編・特別編についてはない。

委 員 長　資料編の見直しは専門委員会で出た意見だが、具体的にどうするといった意見は出なかったので、事務局で案を出したということだが、専門委員長には事前に了解を得ているのか。

事 務 局　確認してもらった。

委 員 Ａ　40年以上前に出ているのでそぐわないというのは、具体的にはどういったことをいうのか。

事 務 局　中世資料で文書の大きさ、紙の質といったモノの情報が全くないのでその情報が欲しいこと、また旧北上市史は司東さんの作った本であるのでそれを基に通史編を書くことは難しいという意見が出た。

委 員 長　そぐわないという言葉が刺激的かもしれない。

事 務 局　決して『旧北上市史』を否定するものではなく、むしろ『旧北上市史』は書かれた当時としては評価されるもので、それは今でも変わらないが、書かれた以後学会における新たな事実の発見等により、学説が変わったりしているので、なかなかそれをもって通史編を書くのは

難しい部分がある。補遺編で補おうと当初は考えていたが、それだけでは不十分なものになってしまうという。北上市がせっかく市史を作っていこうとするなら、この際きちんとしたものを作っていかなければならないのではないかということであった。

委員A　積み重ねであることから（『旧北上市史』を）抹殺することなく、当時の北上は努力してきたのだから、それを尊重して継承するという姿勢の方がいいのでは。

事務局　先生の方も『旧北上市史』は、当時としては価値のあるものであることを前提にしている。その中で使えるものは使いたいが、中には使えないものもあるので、それを補遺や通史編だけで対応するのは難しいので、できればそうしていただきたいということだった。

委員長　まったく『旧北上市史』を無視して作るということではないと。

委員A　司東先生は地方史から全体史を組み立てていこうという意欲を持って市史を編さんしたので、地元という意識を大事にされている。なので、その意図を忘れてはいけない。

委員B　司東先生は、資料をもとに別な考えがあるのなら否定はしないし、むしろそういった方向に発展してほしいと常々言っていたので、資料編を新しく編さんするのは良いと思う。『旧北上市史』の中には使えるのか怪しい資料もあるとは思うが、そこは堂々と新しい知見と判断で扱っていいと思う。改訂ということで出すという意見は、資料編として新しく作り直したいということであろうと思うが、これには大賛成である。問題は近世の資料編だと思う。改訂といった中には新しく見つかった資料の補遺という内容もあると思うが、すでに活字化された資料も取捨選択して掲載する必要もあるだろうが、どのように考えているか。

事務局　北上市の近世を考えていく上で舟運や藩境は外せないので、すでに活字化された資料の厳選も必要になるだろうと今のところは考えている。これについては近世部会長とも練っていかなければいけない。

委員B　『旧北上市史』でページをとっているのは、例えば各村の検地帳である。旧北上市史には和賀・江釣子の検地帳は載せていないが、これは収録するのかどうか考えていかなければならないだろう。

事務局　今の自治体史をみると『旧北上市史』並みのページ数で出すところはあまりない。なので、資料を厳選しなければならない。

委員B　分野を絞るなどの厳選が必要ということになるということか。舟運、藩境、宿駅といった北上市の近世の特徴に着目した内容構成にならざ

るを得ないということでいいか。

事務局　全分野をまんべんなくということは難しいだろう。北上市について知ってもらうという観点からすると、特徴をとらえた内容にした方が分かりやすいものになるだろう。

委員長　特徴を際立たせるということか。旧和賀町や旧江釣子村の分はとりこめるか。

事務局　資料が集まるかどうかにかかっている。

委員B　近世の新出資料は北上の歴史の重要項目に相当するものを補っていくということになるのか。

事務局　そうなることになるだろう。

委員B　近世資料編の改訂にはいろんな問題があるなと思った。

委員長　それ以前の時代についてはどうか。

委員B　考古、古代・中世は改訂した方がすっきりするだろう。

委員長　近世については、近世の先生とよく相談しながら進めてほしい。次に確認したいのが、資料編を出して２年後通史編を出すのは大変だという意見についてはそれに対して事務局ではどう対応するのか。

事務局　近世、近現代ともに資料編を出して２年後に通史編を出すという計画になってしまう。ただし、現行の現代編のように、資料編の１年後通史編を出すという計画はなくした。

委員長　作業量によるかとは思うが、いずれにしても平成37年度の事業終了は変更はしないと。とりあえずはこの計画で進めてよろしいか。

（一同賛成）

委員長　次に「自然」を「自然史」にしてはどうかという意見についてだが、どうするか。

委員C　他の市町村で出している自治体史では「自然」というタイトルだが、自然史の含みをもっている。ただ、「自然史」というのは一般の方にはなじみがないので「自然」という言葉を選んでいる。自然史というのは地球と生命の生い立ちであり、天文や化学、物理といったものは入らない。どっちにするか非常に迷うが、専門家からみると自然史がしっくりくるだろうが、一般の人にはなじみがない。なので、大石委員の意見も分かるが、他の市町村で出しているように「自然」で出した方がいいと思う。非常に迷うところだが。

委員長　それでは、「自然」ということにしたい。それから部会の人数についてだが、全体の人数を変えずに調整するということだが、これについて了解を得たいがどうか。

（一同賛成）

基本計画の見直しについて、他に意見はあるか。

（なし）

それでは、事務局の原案で変更するということでよろしいか。

（一同賛成）

では、原案のとおりの変更ということで。次にその他については。

事 務 局　今後のスケジュールについて、９月に編さん専門委員会を開き今日の報告をしたいと考えている。それ以降については年明けの1月で編さん委員会の開催を考えている。ただし、編さん専門委員会で話の流れによっては編さん委員会が増える可能性がある。

委 員 長　その他、皆様から意見があれば。

委 員 A　忘れてはいけないのは町の変貌である。それは農村部でも同じことだが、我々が生きている間にえらい変化が起きている。近現代できちんとおさえるのであればそれでよい。大事なことだと思う。身近な問題であり、そのことを忘れずに近現代の専門部会に取り上げてもらいたいし、一つの項目として取り上げてほしい。意外と専門の歴史家が入ると忘れがちになる。

委 員 長　歴史的な検証が終わっていないというのもあるとは思うが、確かに興味があるところだと思う。20年・30年前のものは教科書には載っていないので、（市史に）あればいい内容だと思う。まちの形も変わっているし。

委 員 A　あとは地名。地名は歴史の証明だが、行政が抹殺して都会的な名前になってしまった。それはいいが、きちんとそれを書きとめてほしい。非常に大事なことだと思うし、後世に伝えてほしい。

委 員 D　町名といえば、例えば竹駒町は駒ヶ岳が見えるから竹駒町になったと言われているが、そういうのは記録に残ってない。80年生きてきたが、軽銀のあたりから黒沢尻の人口構成が変わったと思う。前は顔をみればどこの人か分かったが、それが疎開や引き上げや工場などで大きく変わった。湯田ダムの工事でも大きく変わったし、工業団地の建設でも大きく変わった。そういったことも伝えていかないとだめだろう。どういった資料が出てくるかだと思う。

事 務 局　いくらか資料の情報提供は出ている。

委 員 D　企画展を見に行ったが、ああいったものを次々に開催して、もっと宣伝してほしい。今回は国体だが、いろんな分野をやってほしい。

委 員 長　他に何か意見はあるか。

（なし）

(6)　閉会

※会議終了後、資料編の古代・中世の内容について、「旧北上市史第２巻の改訂」にした方がいいと意見があった。旧北上市史第１巻は考古の分野であり、古代の文献資料は２巻に収録されているため。

※会議終了後、部会のメンバーについて、専門家だけでなく地元の人を入れるよう強い要望があった。